

日本は何処に向かうのか

わが国の資本市場には、世界の国々と類似した側面と、特殊な側面がある。例えば、類似した側面として、わが国の自動車株はじめ大型株は、先進諸国との連動性が高い。特に最近、わが国独自の動きは薄まり、グローバルなセクターの効果が強まっている。また、バリュエーションも世界標準化した。国内株の配当利回りやPERは、世界各国の株式と比較可能な水準となった。

一方、わが国の特殊性が際立つ側面もある。例えば、世界標準の経営者は、株主の利益を最重視すべきと答えるのに対し、わが国の経営者は従業員なども含む利害関係者の利益と答える。日本のシステムが他国と異なれば、世界中の投資家の分散投資には望ましいが、効率が際立って低いシステムでないことを祈りたい。

さらに大きな影響を与える要因として、隣国、中国の存在がある。日本の高度成長期を超える中国には、世界の投資家の関心が高い。日本が共に成長できるか、あるいは置いて行かれるのか、我々の努力にも依存しよう。反面、投資家としては、すでに世界の株式市場で10%のウェイトを切り、魅力の乏しくなった国内株に見切りをつけ、グローバル株の重視を考える向きもあるかもしれない。

《目次》

- ・ (資産運用) : アナリストの業績予想の精度について
- ・ (年金運用) : 「NOMURA-BPI 総合」の指数見直し
- ・ (年金運用) : ブラック・リッターマン法による資産配分～その1